



岡本 圀衛

日本生命保険  
取締役会長



一般的に、年を取ってからの友人はなかなかできないといわれる。それがひょんなことから、友人がたくさんできてしまった。写真の中の皆さんは、私が65歳以降に知り合いになった方々である。

さらに付け加えていえば、この「思い出写真館」というページは、遠いかなたのノスタルジックな、あるいは少なくとも10年、20年は経過した写真を載せるのではなからうか!?

ところがこの写真は、つい先日、8月に撮ったものである。今は「思い出」ではなくとも、将来私が「輝かしい」と思うか

「寂しい」と思うか分からないが、本物の老後を迎えた時、確実に「思い出」となる写真である。

写真のメンバーは、私が委員長を務めていた当時の財政・税制改革委員会の副委員長、委員の方々である。とりわけ、副委員長は全員顔をそろえている。このメンバーで2015年1月に『財政再建は待たなし〜次世代にツケを残すな〜』を提言した。みんな一家言

を持つ論客ぞろいである。提言をまとめるのには相当難儀した。しかしながら、難儀の度が高ければ高いほど、それは参画意識の高さ、真剣さ、深い相互理解の表れだったのではなからうか。

「消費税17%」「毎年2%の経済成長率」「毎年5,000億円の歳出削減」を同時に実現することを骨子とした財政改革の提言だが、世間から見れば破天

荒と思われるこの提言、経済同友会だからこそ出せたものである。

しかし、これで結束した仲間たち、提言を発表した後は、年に1〜2回集まってはドンチャン騒ぎをする。乏しい財政状況なのに、懐具合は気にしない。

そして…この8月、今回はみんなで印刷博物館を訪問。凸版印刷の足立会長には丁寧なご案内を頂いた。特に、私の大好きな熊本城のVR（バーチャルリアリティ）の展示には感銘を受けた。いつも幹事役を買って諸事万端取り仕切る、日本信号の降旗会長が声をかけたので、これだけの人が集まった。

この中には、「上げ潮派」も混ざっているかもしれない…。老後の友は良き友である。

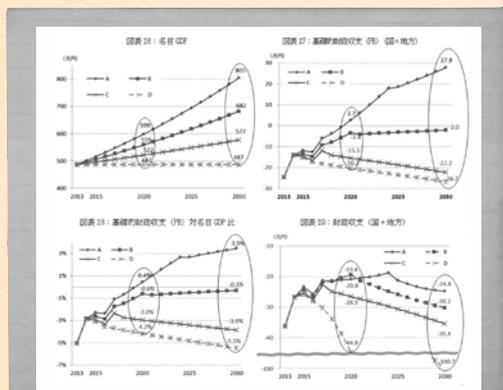
同友会のとりもつ縁



印刷博物館での記念撮影



財政・税制改革委員会の提言発表記者会見  
(2015年1月)の様子



提言における財政の将来試算